



消防学校 ニュース



令和4年8月号

消防職員特別教育 水難救助科第30期

～特別教育 始まる～

6月28日（火）から7月15日（金）まで、県内10消防本部（局）から推薦を受けた23人の消防職員が水難救助科第30期生として本校へ入校し、教育訓練を受けました。

本県の昨年夏期の水難事故は35件発生しており、全国の都道府県で最多発生件数となりました。

また、行動制限のない夏休みを迎えることにより水難事故増加も予想され、レジャーシーズンを迎える各消防本部にとって、水難救助業務は大変重要な任務の一つとなっています。

本課程では、座学による基礎知識の習得や各種実科訓練と併せ、最新の水中ドローンの操作体験や静岡県消防防災航空隊（オレンジアロー）との合同訓練も実施しました。

（担当教官コメント）

今期のカリキュラムは、多くの事故事例の紹介や他機関との連携を通じて、現場活動をより一層イメージできるように配慮しました。

今回、静岡県警察機動隊の熱海市伊豆山港での長期間の捜索と潜水に関するお話を伺いましたが、今後も訓練等で交流し、両機関の相互理解や現場での良好な連携に繋がればと思います。

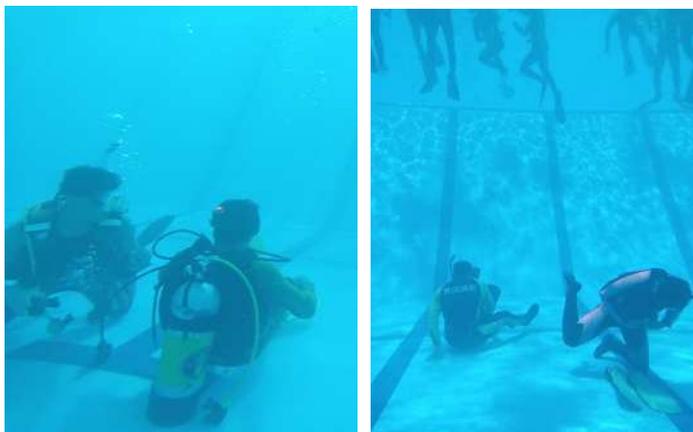
入校生は教育開始当初こそ緊張が見られましたが、教育が進むにつれてお互いに打ち解け、次々と課される訓練を協力し合い、一体感を持って全員で学ぶ姿を見て頼もしさを感じました。

また、事例研究や訓練間での何気ない会話から、水難救助に関する現状や課題を耳にしました。入校生の水難救助という業務に対する真摯な姿勢と静かに燃やす情熱に接し、担当（私）自身学ぶことが多かったように思います。

修了生には、本課程で習得した知識と技術、同期生との繋がりを糧に、今後も水難救助対応能力の向上に邁進されることを期待します。

教務課主査 吉瀬 大介（富士山南東消防本部から派遣）





学校プールでの潜水訓練



富士川での急流河川救助訓練



富士川での急流河川救助訓練



海洋での搜索訓練（三保海岸）



最新水中ドローン操作（用宗漁港）



静岡県消防防災航空隊との合同訓練（用宗漁港）



初任科第93期危険物取扱者試験

～合格率100%をめざして～

「危険物取扱者」は、消防法に基づく危険物（火災発生や火災拡大の危険性が高い物質）の取扱いや、その取扱いに立ち会うために必要となる国家資格です。資格取得のための試験は、現在、全都道府県の指定試験機関（総務大臣が指定）である（一財）消防試験研究センターが行っています。

（一財）消防試験研究センター静岡県支部の協力により、6月23日（木）本校において初任科生を対象とした危険物取扱者試験が実施されました。

（担当教官から）

危険物取扱者試験は、「乙種第4類」又は「他の類」の試験となります。学生にとっては入校期間中の初めての国家試験であるため、「**初任科第93期全員合格!!!**」を目標に、入校直後から学習を始めました。

危険物取扱者試験に向けた学習では、『火災のメカニズム』や『消火理論』を学ぶことができ、さらには、広範多岐にわたり利用されている『危険物』に対する知識も習得することができます。このことから、「危険物取扱者試験」に関する知識を習得することは、災害に対応する消防職員として必要不可欠であり、重要な事であることを学生に伝え、今回の試験に臨みました。

結果は目標の全員合格には惜しくも届かなかったものの、**歴代1位の合格率**で試験を終えることができました。学生は、試験を通じて集団生活での勉強の難しさ、時間の有効活用等、多くの事を学んだと思います。また、今回をきっかけに「他の類」や予防技術検定等、消防関係の試験に積極的に臨んでほしいと思います。

教務課主査 望月 竜之介（志太消防本部から派遣）

令和4年度 初任科第93期

令和4年6月23日実施、7月12日結果通知

<乙種第4類>（ガソリン、軽油等）

受験者85人 合格者84人 合格率98.8%

<乙種第2・6類>

受験者9人 合格者9人 合格率100%

【全体】

受験者 94人 合格者 93人 合格率98.9%



絶対合格

【過去の合格率】

☆本試験満点で合格した学生☆



※上から（ ）は所属消防本部
 佐原学生 田島学生 伊藤学生
 （浜松） （静岡） （浜松）
 飯田学生 佐々木学生 村松学生
 （湖西） （熱海） （袋井）
 中山学生 大橋学生
 （富士） （富士）

区分	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	81期	82期	83期	84期	85期	86期	87期	88期	89期	90期	91期	92期	93期
乙4のみ	52.2%	53.3%	42.1%	58.3%	72.8%	71.0%	91.6%	94.6%	90.0%	87.0%	97.4%	95.3%	98.8%
乙4+各種	54.1%	55.7%	45.7%	62.5%	74.7%	75.7%	90.7%	94.9%	91.0%	88.8%	97.7%	95.8%	98.9%

初任科実科訓練本格化

～どんな状況でも助ける～



視界ゼロでの
救出訓練



低層棟からの救出訓練 1



低層棟からの救出訓練 2



車両からの救出訓練



フレーム切断による救出訓練



建物火災の消火訓練



シャッター切断による救出訓練



スキンドイビング訓練



本校には長さ 25m、最大水深 5 mのプールがあり、潜水訓練などの水難救助訓練を実施しています。

7月19日(火)から3日間、プールを使用した実科訓練を行いました。指導員は、この道の専門家である民間企業のインストラクターにお願いしています。セルフレスキュー、スキンドイビング、スノーケリング、レスキューチューブによる救助訓練等を行い、水難救助の理解を深めました。

初任科学生は入校から基本動作の訓練を繰り返し行ってきました。それを踏まえて、現在はいろいろな場面を想定しての実践的訓練に取り組んでいます。困っている市民を適切な方法で助けるために（現場で困らないように）、教官は学生に対して、厳しく、プロとしての技術・知識と心構えを指導しています。

女性消防団員研修会 (第5回)

さらなる活躍を目指して！

7月10日(日)に女性消防団員研修会を開催し、県内の女性消防団員33人が入校しました。消防庁の消防団等充実強化アドバイザー(三重県津市消防団 櫻川政子様)による講義をはじめ、火災の性状に関する講義や体験型訓練、搬送訓練を行いました。

当日は、30℃を超える真夏日でしたが、入校生の皆様は夏の暑さに負けない熱意を持って研修会に臨まれていました。



火災の性状



搬送法

富士宮市少年消防クラブ視察研修

数字でわかる！
消防学校



- ・1日で炊くお米の重さは36kg！
- ・訓練で使うプールの深さは5m！
- ・1番高い建物(訓練棟)は26m！
↑その建物内を20秒で登り切る精鋭消防士！(はやすぎる～の声多数)
- ・ホットトレーニング施設の温度は200℃～400℃にもなる！



立っているだけでも汗が止まらない、暑さみなぎる8月3日(水)午後。太陽のように元気いっぱいな富士宮市少年消防クラブの子どもたち31名が視察研修で来校しました。

第一部では、消防学校の訓練施設について、数字と映像を交えながら学びました。

第二部では、初任科学生の実際の訓練を間近で見学しました。

今回の視察研修を通して、消防士やその仕事について関心をもっていただければ嬉しいです。

真剣に学んでいる子ども達の姿が印象的でした。ここから未来の消防士が誕生するかもしれませんね。

教官紹介 [田島教官]



田島教官は、富士市消防本部から教官として派遣され3年目となります。知識が豊富で、理論派であり、学生には、やさしい口調で厳しく指導しています。その分自分にも厳しいストイックな教官です。

～高倉校長と田島教官との面談から～

校) 初任科教育訓練において、特に、注意している点はありますか。

田) 学生には、かみ砕いて丁寧に教え、「理解」し「身体で覚える」との二段階で教えています。また、技術・知識と人間性はセットでないといけないと考えていますので、特に消防職員としての人間性を教えています。消防には、市民から信頼され頼りにされるブランド力があります。それを裏付ける立ち振る舞い、常に凜とした態度等の空気感を身に付けさせたいと思っています。

校) 初任科学生をどのように思っていますか。

田) 今の学生は賢く、教えたことをすぐに吸収してくれます。真面目でとても好感がもてる学生ばかりです。本当は優しく教えたいのですが、距離をおいて厳しく指導しています。消防は任務を完遂して当たり前の世界ですので、訓練で成功したからといって褒めはしません(評価はします)。

校) プライベートで何か趣味はお持ちですか。

田) ジョギングや登山をはじめ、興味のあることは全て行います。登山は北アルプス等の高山から、手軽に登れる低山まで幅広く楽しんでいます。

高倉校長から一言

静岡市のビル火災で消防職員1名が殉職されました。残された御家族、関係の皆様にご哀悼の意を捧げます。田島教官はじめ本校の教官達

も改めて基礎訓練の重大さを感じられたと思います。

田島教官の学生とのやりとりを垣間見る時、発せられる言葉にはこの子達(学生)には自分の全てを与えたい。失敗を成功に導いてあげたい。という熱意を感じます。自分にも人に言えないような挫折があったと、学生に打ち明けられていました。その田島教官が通勤に年季の入った小型ジープを使われています。エンジンを載せ換えても三か月に一度は故障されると笑ってお話されていました。目をかけたモノ(者)には、とことん愛情を捧げることのできる「プロフェッショナル」ですね。

75歳を迎えられる小田和正さんが、今年も全国ツアーを開催されてエコパアリーナにも来られています。2018年には自分が九州からの出張帰りの新幹線で偶然お会いし、図々しくサインをもらい、購入していたチケットで数日後ツアーにも参加させていただきました。

ステージ演出は決して派手ではありませんが、アリーナ1階の観客席間には花道通路が張り巡らされ、時に走りながら歌われる小田ワールドに、皆包まれます。2018年ツアーでは、インターバルの「ご当地紀行」なる紹介ビデオで県庁別館食堂で「きつねうどん」を食された様子が紹介されました。ウソでしょ!小田さん事前に教えてくだされば・・・

小田さんも「プロフェッショナル」です。またツアーにお邪魔したいと思います。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

